きけわだつみの声

日本戦没学生手記編集委員会

日本戰歿學生の手記

きけわだつみのこえ

一九四九年一〇月二〇日第一版刊
一九五〇年一月三〇日第三版刊

定價 二〇〇圓

東京都文京區東大内東大協同組合出版部内
編集者 日本戰歿學生手記編集委員會

東京都文京區東京大學内東大協同組合出版部
發行者 岸部實

東京都板橋區志村町五番地
印刷者 原喜平

發行所 東大協同組合出版部
東京都文京區本富士町一東京大學内
電話(86)二二二一—九内線三九五

凸版印刷株式會社印刷

八月九日

東大協同組合出版部刊

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

○ ゴオリキー「幼年時代」

——自分で働けるやうに習へ、他のものに頭を下げるな、そつと落ちついて暮せ、だが眞直に見よ、みんなのいふことを聽け、だがすることはお前のよいやうにしろ……

× × ×

○ 國家による搾取强制なるが故に、といふ盲從。

吉村友男

早稲田大學文學部國文科學生。昭和十九年十月比島西方海上にて戰死。二十二歳。

羽仁五郎の『クロオチェ』を讀んで

1

クロオチェの偉いところは學問を信じ多くの人のために盡すとゆうことを考へていたことだと思ひます。學問の獨立とゆう言葉があるけれどもそれに徹すると云ふことはたいへんむずかしいことだと思ひます。クロオチェとゆう人はほんとうにそれを信じそれを守つた人でした。平和な

時は空論も空論と見えないものだから學問の獨立とゆうような言葉もずいぶん繁昌したけれども、現代のような異常な時代になると、空論なんか出る餘地がなくなりみんなあまりそうゆうことを言わなくなりました。もと〳〵本氣で云つていたわけではないでしようからあたりまえだけれど、たいへん情ないことだと思ひます。

クロオチェの偉いところは、その議論とゆうより、そう云ふ時代にも尙、ビクともしない彼の學問的信念だと思ひます。

2

現代のような激しい時代になると、學者はふたつに分れると思ひます。一つは、自分の學問を信じあくまで現代を批判しようとする人と學問なんかそつちのけにして、現實に押し流されていく人と。クロオチェは、もちろん前の人でした。それは前大戰に處した彼の態度を見ればわかります。その時、現實こそすべてだといつて情熱だけに身をまかした人々がいまどうなつているか。私達はハツキリ見ることができます。クロオチェは學問を信じていましたけれど、現實を少しも忘れてはいなかつたと思ひます。それは、クロオチェが批判とゆうことを大切にし、「クリティカ」とゆう雜誌でどしどし新しい事態を批判していたことでわかります。これは、クロオチェが學問ばかり盲信して現實を忘れたうその學者と大へんちがつている點だと思ひます。

現實に押し流される人は、現實は複雜で單純な理論なんかには乘らないと云ひますが、うその理論にはどんな現實だつて乘らないでせう。

クロオチェの理論は、もう少し深い、强い理論で、歷史の正しい批判から生れた考へだからどんな事態にもびつくりしないで正しく批判する事が出來たのだと思ひます。

3

クロオチェは批判とゆうことを一番大切にしました。

歷史の正しい批判を現實に活かすことによつて、人々が幸福になれるのだと考えていました。それはたゞ、歷史とか科學だけではなく、私達の生活にも言へると思ひます。クロオチェの樣に、「自分自身の批判」を持ち、それを活かすことによつて、わたしたちは立派になれると思ひます。今の生活に都合が悪いからと云つて、批判をすてたなら、かへつて、ほんとうの幸福をうしなうことになると思ひます。それがわたしたちの教養とゆうものではないでせうか。大きく一國とか人類の立場からいえば、それは學問です。教養の無い國がどうして立派に幸福に、なれるでせうか。その學問が批判とゆうものでなければならないと、クロオチェは言つたのだと思ひます。

教養が欲望にまけていて、わたしたちは立派になれることはないでせう。一國の場合でも同じことだと思ひます。

4

また、クロオチェは、多くの人のために盡すとゆうことを考えていました。

どんな人にも幸福が行きわたるように、ひとりの幸福が一人の不幸を産むことのないように、そうクロオチェは心をこめて考へていましたから、いつも身を低くし、どんな勢力にも加わらず、學問の純粋を守つていました。學問の純粋とゆうことは、生活とはなれるとゆう意味ではなく、いろ〳〵な勢力に負けないとゆうことだと思ひます。生活と離れて、學問が獨立してるなんてことは意味をなさないと思ひます。

ですけれど學問の純粋とゆうことを生活とはなれるとゆうふうに考へている學者は案外、多いのではないでせうか。

クロオチェは、ほんとうの意味の學問の純粋を保つていた人でした。そうゆう、清い、強い心を持つた人が、一部の人だけの幸福を考えるはずがないのは、あたりまえだと思ひます。

5

自分は眞理の國の王だ、とキリストがいつた時、ピラトは眞理とはなんだねとたづねました。ピラトは現實に流されていた人だからです。そうゆうものを、はるかに見とおして、どうしても眞理を確信しなければいられなかつたキリストには、ピラトの問いは意味をなさなかつたのだと

思ひます。

クロオチェにもこの時のキリストのようなえい智があつたとわたしは考えます

大井榮光

昭和十二年東大理學部數學科卒業。十三年九月入營。翌年四月出征。十六年六月華北柿樹園にて戰死、二十六歳。

母上様

いよ〳〵別離の日が參りました。

けれども私は元氣にいつて參りますから、呉々もお體を大切になさつて苦心して生還した時には一層元氣な御姿に接し得ることを祈つて居ります。

何の屈托もなく何の感情の高揚沈低も無きかの如く裝ふて居りましても、私はやはり多くの未完成を抱いたまゝ戰地に參ります。そこには寂莫の感もありますし愛惜の情もあります。けれども見えざる神の意志の支配に全幅の信頼を置いて、危難地に赴く構へは聊か乍ら既に會得して居

试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

ると自負して居ります。此の上はママも義光も三重子も皆が私の心情をくみとつてせめて笑顔をもつて私を送つていたゞきたかつたのでしたが、やはり親と子の情はもつと深刻切實なものである様です。私はママの涙はいとひませぬ。しかし此の後はなるべく朗らかに日々を過されて私の出しますたよりを御まち下さることを願上げます。はじめから「悲しみの涙」で戰地に赴くのではなくて死ににゆく様な氣が却つておこりますから、どうぞ釣道具やスケッチブックをもつて出かけた心持ちになつていただきたいと切望いたします。どうかもう決して涙は流すまいと決心して約束していただきたいものです。

櫻の花の美しき風情、春日ののどかな氣分に落着きまして自分の心をふりかへりますと色々と新しい感情が湧くのでした。今までは人世だとか、惱みだとか樂しみだとか、その他のむづかしいことをお互ひにわかつた様な氣になつて話しあつたり獨り合點したりしてゐましたが、結局は殆んど全部は過ぎゆく者にすぎませんでした。そして唯基督による救ひといふ事が動かぬ世界への唯一の希望のかけはしとして殘されてゐる様な氣がします。その信仰も決して非常に强固であるとは敢て申せませんが、他のもの―世の中のすべてにくらべればはるかに切實なものの様に思へるといふわけです。

あれ程戰爭を嫌つて恐れてゐたかつての私が、今や一切の雜念をさらりとすてて、ひたすら戰

ひにのぞむ者としていろ〳〵修業をつゞけることは、全く驚異すべき事柄の様であらうと思ひます。けれどもそれは家の人からみれば驚異的現象であつても當事者になつて見れば、かなり當然すぎるものとしか考へられません。　それ程軍人になりきつたか」と云はれればそれまでですが私はむしろそう考へるよりは「軍人といふ境遇におかれて特殊な鍛錬をされつつある」といふ方が正當であらうと思ひます。私は「それ程軍人になりきつては居りませぬ」。

軍隊生活に於て私が苦痛としましたことの内で、私の感情―繊細な鋭敏な―が段々とすりへらされて、何物をも恐れないかはりに何物にも反應しない様な狀態に墮ちて行くのでないかといふ疑念程、私を憂鬱にしたものはありません。私はそうやつて段々動物になり下つて了ふよりは、いつまでも鋭敏な感情に生きつつ、しかも果敢な戰鬪を遂行したい衝動にかられてゐます。しかし私は無理はしません。一瞬は驚き、たじろいでも次の瞬間には最善の方法を落着いて實施して行くといふ様に、自分の性格を生かして最後の勝利に向つて邁進したいと思ひます。私にとつて所謂最後の勝利が生還によつてはじめて成就されるものか、或は戰死してのみ與へられものかは今の所全然わかりません。がそれだけに、いとも朗らかに出發して行けますから、どうか留守の皆も樂しい日々を送つて、私の必生　必死！）の修養を見守つてゐていただきたい。死すればそれは又主の御旨ですから、めゝしく涙など流さぬこと、生還したとしてもそれで最後の勝利が與

へられたわけではないのですから輕々に笑はぬ事を願ひます。

以上何だか深刻な長談義になりましたが、その中から微笑だけを讀みとつて下さい。これからはもうすこし面白い、ひようきんな快い事も澤山かきたいと思ひます。

私が最近あまり書かなくなつて、自分でも頭が石の様にこち〳〵になつて了つたかと思ひましたが、まだ〳〵どん〳〵書けますし、多少人間らしい感情も人並に湧きおこりますから、時折の感情を、時折書いて送りますから、愉しき團欒の糧にもして下さい。これで第一信を了ります。

一九四〇・四・一七　　榮光生

牧師へ

〇〇〇に上陸してから北京及天津に各々一泊して、只今〇〇に來て居ります。愈々明日か明後日には〇〇に參ります。所謂人の世界から離れて支那の奥地に參りますと、支那の持つ苦悶を味ふことが出來ます。黄塵萬丈とは實際文字通りですが、それ以上にそこには億を以て數へられる民衆が塵埃にまみれて、理想も失望も知らずに生存してゐます。基督の光が彼らに與へられる日は、果して何時であらうと思はされます。

主にありて　榮光生

牧師へ

御恩寵を祈ります。

主の御惠によつて元氣ですから御安心下さい。戰地に於て夕方靜かな折に讃美歌を以て讃美する餘裕を與へられて居る事は隨分幸ひな事と思つてゐます。私の現在の狀況は恩惠に滿ちてゐると云へます。生命の危險は、戰地ですから何處でも問題になりませんが、私としては心の餘裕のため樂な氣がします

本夕はじめて支那人の教會に入つてみました。祈禱會があるやうなので町の中の視察の歸途ついでに立ち寄つたのです。中年の男女老人が集つてゐました。私は日本の耶蘇教徒だと云ひましたら、とても嬉しさうな顏をしてこちらに日本語の聖書がありますとわざわざ出して來てくれました。支那語の聖書を珍らしさうにながめてゐたからだと思ひます。すぐ歸つたのですが、歸り際に老人が出挨及記を呉れようとしました。嬉しいことでした。町の中を歩いて歸りながら、廢跡のこの部落ではありますが、今私の心の中には信仰者の喜びが溢れてゐることを自覺致しました。

教會のことを忘つて御惠みを祈つてゐます。皆樣に宜しく。

主にありて　榮光生

川島　正

昭和十五年東京農大卒業。同年十二月入營。華北部隊に編入。二十年二月華南にて戰死。二十九歳。

昭和十八年一月三十一日　晴

夜中一時半本部よりの電話に接し五時半凍てつく寒夜を殘雪踏んで討伐に出動。

中澤隊の一兵が一支那人を岩石で毆打し、頭蓋骨が割れて鮮血にまみれ地上に倒れた。それを足蹴にし、又石を投げつける。見るに忍びない。それを中澤隊の將校も冷然と見て居る。高木少尉の指圖らしい。冷血漢。罪なき民の身の上を思ひ、あの時何故後れ馳せでも良い、俺はあの農夫を助けなかつたか。自責の念が起る。女房であらう、血にまみれた男にとりついて泣いて居た。しかし死ななかつた。軍隊が去ると立ち上がつて女房に支へられながらトボトボ歩き去つた。

俺の子供はもう軍人にはしない。軍人にだけは……平和だ、平和の世界が一番だ。

二月十日　晴

『民心把握について』師團司令部より訓示が來た。全くだ。威壓と恐怖手段のみでは統治は不可

能だ。從來の駐屯部隊の暴虐は一騷動來なければ不思議な位だ。

支那事變は陸軍の勝手な功名心により勃發した戰だから致し方もない。

二聯隊の將校以下二十餘名が部落民に殺されたと云ふ事件が起つたが來るべきものが遂に來た感じだ。

目黑晃

東大文學部社會學科學生。昭和十六年九月華中岳州野戰病院で戰病死。二十四歲。

父への手紙

昭和十六年九月十六日

父さん、秋が來ました。今まで百何十度といふ暑さの中にうだつて居たのが急にあの冷涼とした秋風に驚かされたのです。星空も綺麗です。蟲が身近に鳴きます。どんな蟲でも——蟋蟀でも松蟲でも內地で聞ける樣な秋の蟲はどんなものでもこの支那の地に私達兵隊に一寸した鄕愁をおこさせるのです。私達兵隊がお互に依り合つて話す樣な時は、だからあの內地の山河と食物の話

试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook